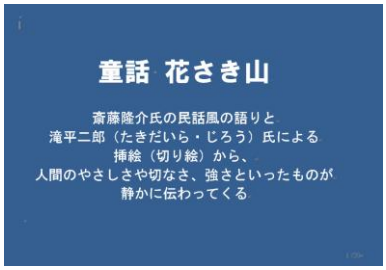
齋藤隆介作　「花咲き山」

P1：
童話 花さき山
斎藤隆介氏の民話風の語りと
滝平二郎（たきだいら・じろう）氏による
挿絵（切り絵）から、
人間のやさしさや切なさ、強さといったものが
静かに伝わってくる



P2：
この民話ふうの物語絵本を読んだ小学生
たちは、ひとりのこらず、自分のこと
よりも人のことを考えてあげる、やさしい
心の美しさとたいせつさに、
心から感銘を受け、共感しています。

P3：
主人公は、山村の貧しい農家に生まれた
「あや」という女の子です。

P4：
おどろくんでない。おらはこの山に１人で住んでいるばばだ。
山ンばというものもおる。
山ンばは、悪さをするというものもおるが、それはうそだ。
おらはなんにもしない。
おくびょうなやつが、山ンなかで
しらがのおらをみてかってにあわててる。
そしてはべんとうをわすれたり、あわてて谷さおちたり、
それがみんなおらのせいになる。

P5：
あや。おまえはたった１０のおなゴわらしだども、
しっかりもんだから、
おらなんど、おっかなくはねえべ。
ああ、おらは、なんでもしってる。おまえのなまえも、
お前がなしてこんなおくまでのぼってきたかも。
もうじき祭りで、祭りのごっつぉうの煮しめの山菜を
とりにきたんだべ。ふき、わらび、みず、ぜんまい。
あいつをあぶらげといっしょに煮るとうめえからなァ。

P6：
ところがおまえ、きすぎて、みちにまよって
この山さはいってしまった。
したらば、ここにこんなにいちめんの花。
いままでみたこともねぇ花がさいているので、
ドデンしてるんだべ。
な、あたったべ。
なしてこうしてさくのだか、そのわけを、あや、
おめえはしらねえべ。
それはこうしたわけだしゃ・・・。

P7：
この花は、ふもとの村のにんげんが、
やさしいことをひとつするとひとつさく。
あや、お前のあしもとにさいている赤い花、
それはお前がきのうさかせた花だ。

P8：
きのう、いもうとのそよが、
「おらサも、みんなのように祭りの赤いべべかってけれ」
と、あしをドデバタしてないておっかあをこまらせたとき、
おまえはいったべ、
「おっかあ　おらは、いらねえからそよさ、かってやれ」

P9：
そういったとき、その花がさいた。
おまえはいえがびんぼうで、ふたりに祭り着を
かってもらえねぇことを知ってたから、じぶんはしんぼうした。
おっかあは、どんなにたすかったか！
そよはどんなによろこんだか！

P10：
おまえはせつなかったべ。
だども、この赤い花がさいた。
この赤い花は、どんな祭り着の花もよう
よりもきれいだべ。
ここの花は、みんなこうして咲く。

P11：
ソレそこに、つゆをのせてさきかけてきたちいさい、
青い花があるべ。
それはちっぽけな、ふたごのあかンぼうの
うえの子のほうが、
いまさかせているものだ。

P12：
兄弟と言っても、おんなしときのわずかなあとさきで
うまれたものが、じぶんはあんちゃんだとおもってじっと
しんぼうしている。
弟は、おっかあのかたっぽうのおっぱいをウクンウクン
とのみながら、もうかたほうのおっぱいも
かたっぽうの手でいじくっていてはなさない。
うえの子はソレをじっとみてあんちゃんだから
しんぼうしている。
目にいっぱいなみだをためて・・・。

P13：
そのなみだがそのつゆだ。

P14：
この花さき山ーいちめんの花は、みんなこうしてさいたんだ。
つらいのをしんぼうして、じぶんことより
ひとのことをおもって
なみだをいっぱいためてしんぼうすると、
そのやさしさと、けなげさが、
こうして花になってさきだすのだ。

P15:
花ばかりじゃねえ。
この山だって、この向こうのみねつづきの山だって、
ひとりずつのおとこが、いのちをすててやさしいことを
したときにうまれたんだ。
この山は八郎っていう山おとこが、八郎潟にしずんで
高波をふせいで村をまもったときにうまれた。

P16：
あっちの山は、三コっていう大おとこが、
山かじになったオイダラ山さかぶさって、村や林がもえるのを
ふせいでやけしんだときにできたのだ。
やさしいことをすれば花が咲く。
命をかけてすれば山が生まれる。
うそではない、本当のことだ……。

P17：
あやは、山からかえって、おとうやおっかあや、みんなに
山ンばからきいたこのはなしをした。
しかし、だァレもわらってほんとうにはしなかった。
「山サいって、ゆめでもみてきたんだべ」
「きつねにばかされたんでねえか。そんな山や花はみたこともねえ」
みんなそういった。

P18：
そこであやは、またひとり山へいってみた。
しかし、こんどは山ンばにはあわなかったし、
あの花もみなかったし、
花さき山も、見つからなかった。

P19：
けれどもあやは、そのあとときどき、
「あっ！いま花咲き山で、おらの花がさいてるな」って
おもうことがあった。

P20：
花咲き山　おわり